

# 景気動向指数の見方

平成16年11月

石川県県民文化局県民交流課  
広報広聴室・統計情報室

## 目 次

景気動向指数とは .....	1
(景気動向指数(図-1、図-2、図-3) .....	2)
景気動向指数の算出方法 .....	1
(景気動向指数変化方向表(表-1) .....	3)
景気動向指数の使い方 .....	1
景気基準日付 .....	4
1 景気循環の検出と転換点の設定 .....	4
2 ヒストリカルD I .....	4
3 景気基準日付 .....	6
4 石川県一致指数の推移 .....	7
累積景気動向指数 .....	8
1 累積景気動向指数 .....	8
2 C D I と累積D I .....	8
資料編	
(1)個別指標グラフ 先行系列 .....	9
(2)個別指標グラフ 一致系列 .....	15
(3)個別指標グラフ 遅行系列 .....	25

# 景気動向指數(DI)

## 景気動向指數とは

景気を敏感に反映する指標を集めて一本化した総合的な景気指標のことで、景気の動きを立体的に把握できるように、先行指數、一致指數、遅行指數の3つを作成しています。

先行指數 … 景気の先行きを予知するもの(図 - 1)

一致指數 … 景気そのものの動きを示すもの(図 - 2)

遅行指數 … 景気の動きを最終的に確認するもの(図 - 3)

## 景気動向指數の算出方法

DIは、先行、一致、遅行指數それぞれについて、各系列の3か月前の指標と比較して増加している場合をプラス、減少している場合をマイナスとし、総系列数のうちプラスの系列数(数値に変動がない場合は0.5のプラスとみなす)の割合を百分率で表したもので、50%を上回れば景気は拡張、下回れば後退とみられています。

$$DI = \frac{\text{増加(拡張)系列数}}{\text{採用系列数}} \times 100 (\%)$$

例えば、一致指數の7月分(表 - 1)を上に当てはめると

$$DI = \frac{5 \text{ (拡張系列数)}}{9 \text{ (採用系列数)}} \times 100 (\%) = 55.6\% \text{ となります。}$$

## 景気動向指數の使い方

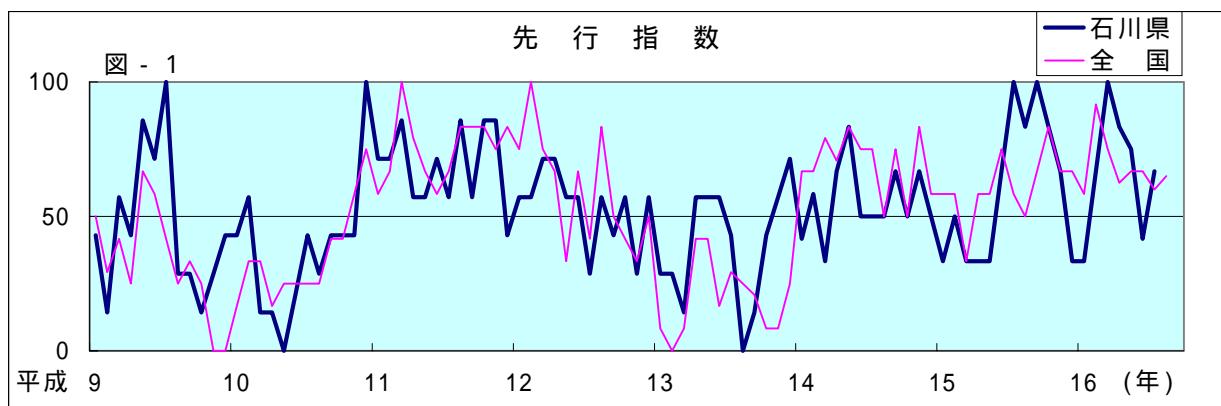
景気動向指數には大きくいって2つの利用方法があり、1つは過去における景気循環を検出する、つまり拡張、後退といった景気の局面と転換点を求めること、もう1つは景気の現状判断及び将来の予測をするということです。

### (景気の現状判断と先行きの予測)

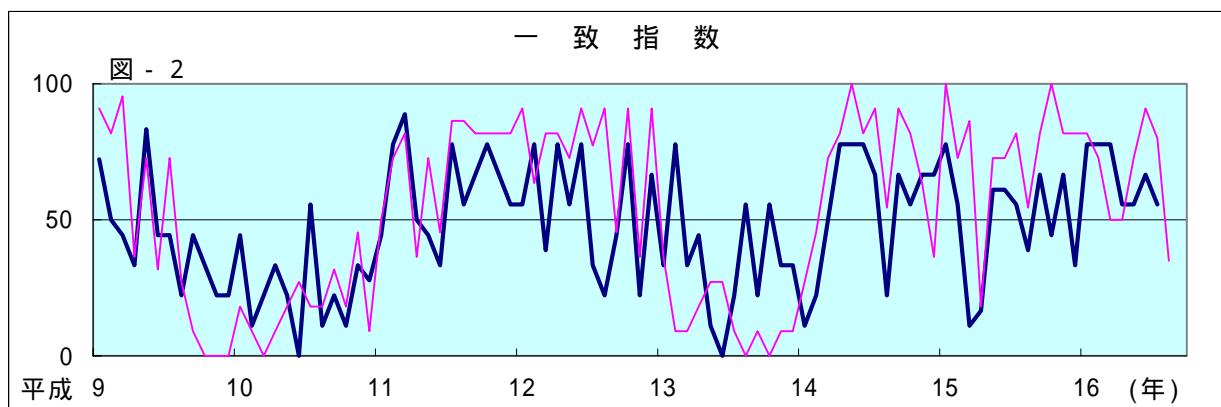
景気の判断については、一致指數が50%ラインの上にあるか下にあるかに注目します。だいたい5か月連続して50%を上回っていれば、景気は拡大局面にあると判断できます。

これに対し、景気の先行きを読むためには、先行指數の動きを中心としながら、一致指數、遅行指數の動きをあわせて総合的に考察する必要があります。

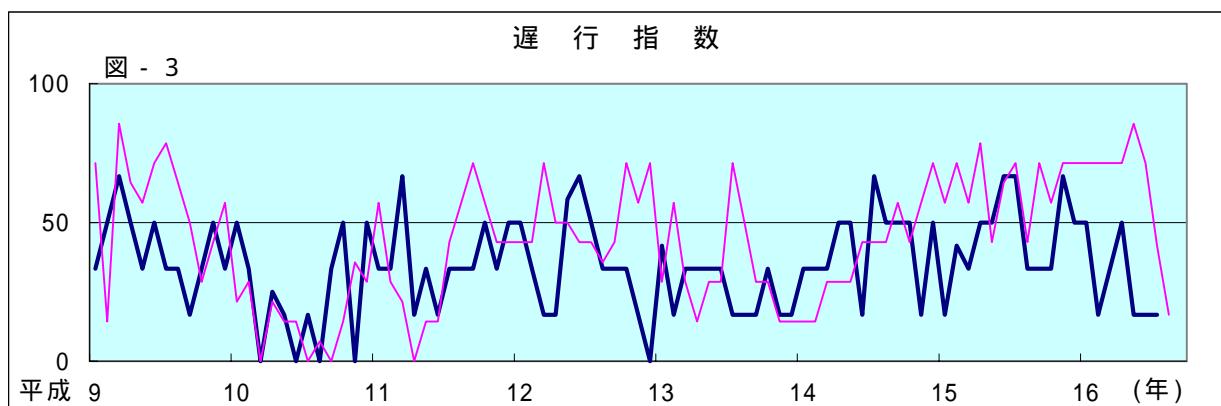
## 景 気 動 向 指 数



- ・7月の先行指数は、新車新規登録数等2指標の変化方向がプラスになったことから、2ヶ月ぶりに50%を上回った。



- ・7月の一致指数は、建築着工床面積の変化方向がマイナスになったが、5指標がプラスの変化方向を示したことから、7ヶ月連続して50%を上回った。



- ・7月の遅行指数は、雇用保険受給者数の変化方向がプラスに転じたが、営業倉庫在庫高の変化方向がマイナスになったことから3ヶ月連続して50%を下回った。

## 景気動向指数(D I)変化方向表

表 - 1

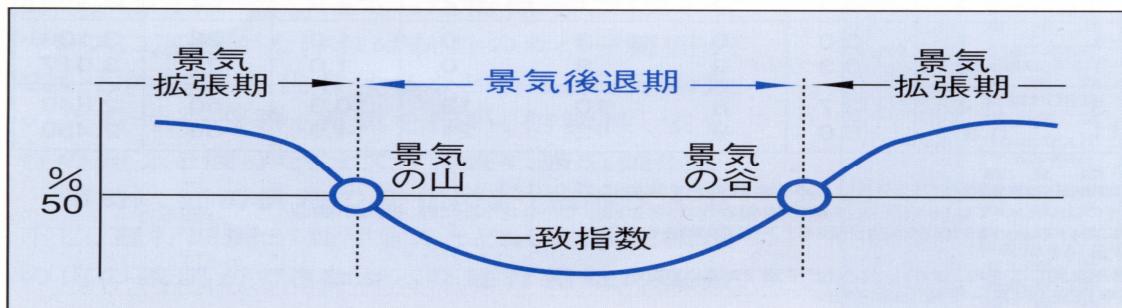
系列名		平成16年												
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
先行系列	1 新設住宅着工戸数	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	
	2 所定外労働時間	+	+	+	+	-	-	-	+	+	0	0	-	
	3 東証株価指数	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	
	4 新車新規登録数	-	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	+	
	5 新規求人人数	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+	+	
	6 銀行貸出残高	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	
	拡張系列数	5	6	5	4	2	2	4	6	5	4.5	2.5	4	
	採用系列数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	先行指数	83.3	100.0	83.3	66.7	33.3	33.3	66.7	100.0	83.3	75.0	41.7	66.7	
	1 有効求人倍率	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	
一致系列	2 大口電力使用量	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	3 鉱工業生産指数(総合)	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
	4 鉱工業生産指数(機械)	-	+	-	+	-	-	+	+	+	+	+	+	
	5 鉱工業生産指数(繊維)	0	+	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-	
	6 百貨店販売額	+	+	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-	
	7 温泉旅館宿泊客数	+	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	
	8 単位労働コスト	-	-	-	+	-	+	+	+	-	+	+	+	
	9 建築着工床面積	-	-	-	+	-	+	-	+	+	-	+	-	
	拡張系列数	3.5	6	4	6	3	7	7	7	5	5	6	5	
	採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
	一致指数	38.9	66.7	44.4	66.7	33.3	77.8	77.8	77.8	55.6	55.6	66.7	55.6	
遅行系列	1 不渡手形発生率	-	+	-	+	+	+	-	-	+	-	-	-	
	2 雇用指数	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	
	3 賃金指数	-	-	-	+	-	+	-	+	+	-	-	-	
	4 貸出約定平均金利	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5 雇用保険受給者数	+	-	+	+	+	+	+	+	+	-	-	+	
	6 営業倉庫在庫高	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	+	-	
	拡張系列数	2	2	2	4	3	3	1	2	3	1	1	1	
	採用系列数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	遅行指数	33.3	33.3	33.3	66.7	50.0	50.0	16.7	33.3	50.0	16.7	16.7	16.7	

(注) 季節変動による影響を取り除き、3ヶ月前に比べて上がった場合は+、下がった場合は-、変動がなかった場合0で示している。

## IV 景気基準日付

### 1 景気循環の検出と転換点の設定

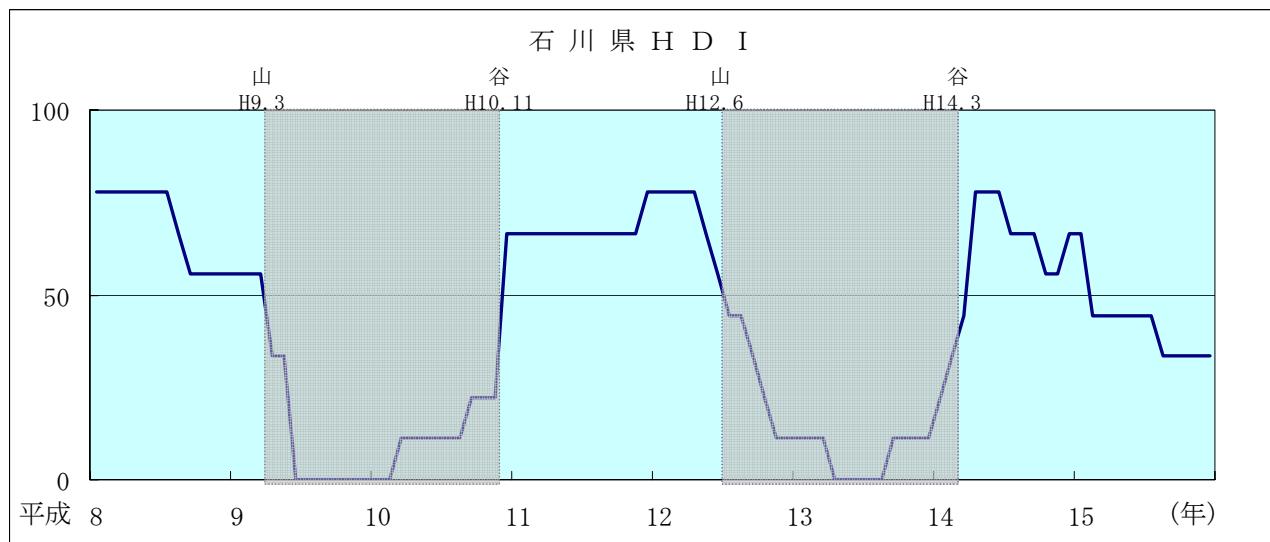
過去における景気循環の特徴の比較、つまり景気変動分析を行う場合には、まず景気の転換点(山または谷)をとらえ、景気の拡張期、後退期に分けて考えることが出発点となります。この転換点を景気基準日付といい、設定する技術的な方法としてHD Iを用いています。



一致指数の 50% ラインを景気の局面と転換点の基準とします。指数が 50% を上回っているときは過半数の系列が上昇していることを表わしています。この時は、経済活動も総体として上昇傾向にあり、景気は拡張局面にあるわけです。逆に指数が 50% を下回っているときは、景気は後退局面にあるということになります。

したがって、50%を切るときが景気の拡張局面と後退局面を分ける分岐点、つまり転換点になります。この場合に、50%ラインを下から上に切るときを**景気の谷**、逆に上から下に切るときを**景気の山**と名づけています。

### 2 ヒストリカルD I(HD I)



HD I は、個々の採用系列ごとに山と谷を設定し(これを特殊循環日付といいます)、山から谷に至る期間は全て下降(マイナス)、谷から山に至る期間は全て上昇(プラス)としてD I を算出したものです。個々の系列における月々の不規則な動きをならして変化方向を決めているため、それから計算されるHD I は比較的なめらかで、景気の基調的な動きを反映したものになります。

基準日付の設定が具体的にどのように行われているか第12循環を例にとってみると下記のとおりになります。

#### (1) 第12循環の山

年 月	平成 9 年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 有効求人倍率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2 大口電力使用量	+	+	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—
3 鉱工業生産指数(総合)	+	+	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—
4 鉱工業生産指数(機械)	+	+	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—
5 鉱工業生産指数(繊維)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 百貨店販売額	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 温泉旅館宿泊客数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8 単位労働コスト	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9 建築着工床面積	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
拡張系列数	5	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0
採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
一致指數	55.6	55.6	55.6	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

#### (2) 第12循環の谷

年 月	平成 10 年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 有効求人倍率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+
2 大口電力使用量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+
3 鉱工業生産指数(総合)	—	—	—	—	—	—	—	+	+	+	+	+
4 鉱工業生産指数(機械)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+
5 鉱工業生産指数(繊維)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 百貨店販売額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 温泉旅館宿泊客数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8 単位労働コスト	—	—	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
9 建築着工床面積	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
拡張系列数	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	2	6
採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
一致指數	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	22.2	22.2	66.7

景気基準日付の山は、景気の拡張期から後退期への転換点すなわち指數が 50% を下回った直前の月、平成 9 年 3 月になります。逆に谷は、後退期から拡張期への転換点で指數が 50% を上回った直前の月、平成 10 年 11 月になります。

### 3 景気基準日付

景気基準日付は、HD I(※)の動きを中心にしつつ、D I や他の主要経済指標等の動きを勘案して設定されています。

景 気 基 準 日 付 (石 川 県)

	谷	山	谷	期 間		
				拡張	後退	全循環
第 6 循環	昭和	昭和 45年 2月	昭和 46年 5月		15 カ月	
第 7 循環	46年 5月	48年 11月	50年 3月	30 カ月	16 カ月	46 カ月
第 8 循環	50年 3月	51年 10月	52年 7月	19 カ月	9 カ月	28 カ月
第 9 循環	52年 7月	55年 2月	57年 9月	31 カ月	31 カ月	62 カ月
第 10 循環	57年 9月	60年 7月	62年 2月	34 カ月	19 カ月	53 カ月
第 11 循環	62年 2月	平成 3年 5月	平成 5年 11月	51 カ月	30 カ月	81 カ月
第 12 循環	平成 5年 11月	9年 3月	10年 11月	40 カ月	20 カ月	60 カ月
第 13 循環	10年 11月	(12年 6月)	(14年 3月)	(19 カ月)	(21 カ月)	(40 カ月)

(注) ( )は暫定の山谷

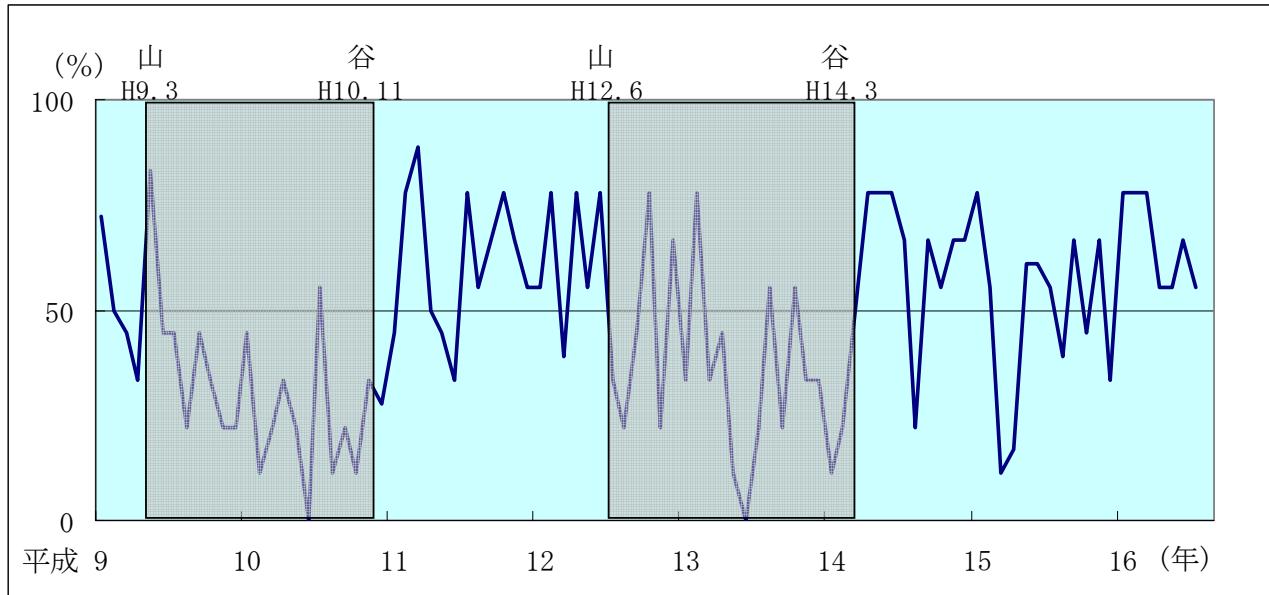
景 気 基 準 日 付 (全 国)

	谷	山	谷	期 間		
				拡張	後退	全循環
第 6 循環	昭和 40年 10月	昭和 45年 7月	昭和 46年 12月	57 カ月	17 カ月	74 カ月
第 7 循環	46年 12月	48年 11月	50年 3月	23 カ月	16 カ月	39 カ月
第 8 循環	50年 3月	52年 1月	52年 10月	22 カ月	9 カ月	31 カ月
第 9 循環	52年 10月	55年 2月	58年 2月	28 カ月	36 カ月	64 カ月
第 10 循環	58年 2月	60年 6月	61年 11月	28 カ月	17 カ月	45 カ月
第 11 循環	61年 11月	平成 3年 2月	平成 5年 10月	51 カ月	32 カ月	83 カ月
第 12 循環	平成 5年 10月	9年 5月	11年 1月	43 カ月	20 カ月	63 カ月
第 13 循環	11年 1月	(12年 10月)	(14年 1月)	(21 カ月)	(15 カ月)	(36 カ月)

(注) ( )は暫定の山谷

※ HD I(ヒストリカル ディフュージョン・インデックス)は4、5P 参照

#### 4 石川県一致指数の推移



(注) 影の部分は景気後退期を示す。

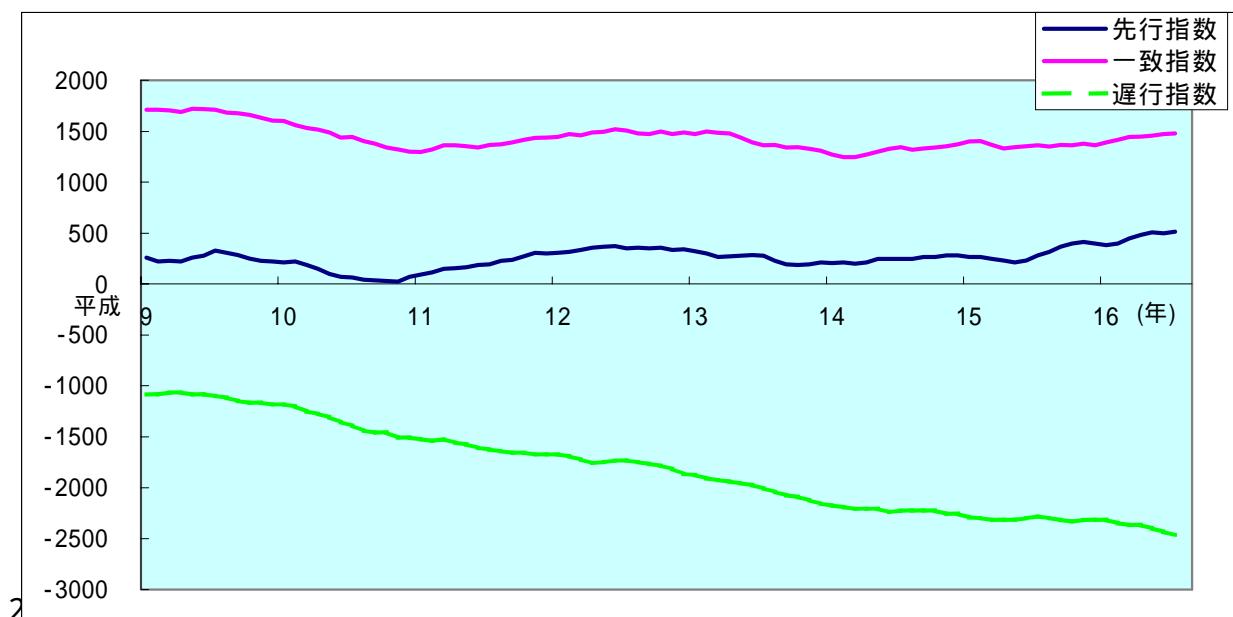
## 累積景気動向指数(累積D I)

### 1 累積景気動向指数

累積D Iは、景気動向指数の月々の値のある基準年月 = 0 (石川県は昭和45年1月)として  
(累積D I)<sub>t</sub> = (累積D I)<sub>t-1</sub> + (D I<sub>t</sub> - 50)により月々累積して求めます。(t = 月)

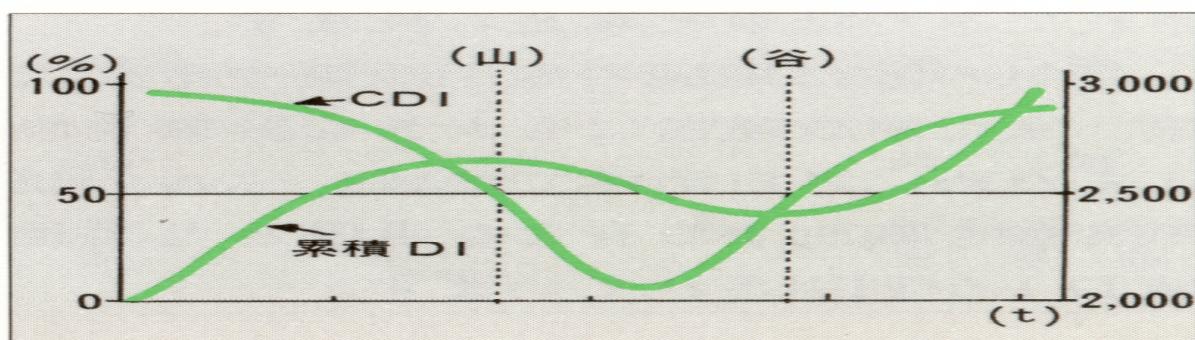
例えば、平成16年7月末の累積D I(一致指数)は、

$$\begin{array}{lll} \text{7月末累積DI} & \text{6月末累積DI} & \text{7月一致指数(3P表-1)} \\ 1,477.8 & = & 1,472.2 + (55.6 - 50) \end{array} \text{となります。}$$



CDIと累積D Iは下図に示すように、CDIの場合50%切点が景気の山・谷と対応するのに対し、累積D Iでは、その山と谷がそのまま景気の山・谷に対応するなど景気の転換点を視覚的にとらえやすいという利点を持っています。

### CDIと累積D I



CDI：の2(4P)のH D Iに対し、月々のデータから作成される毎月のD IをCDI(カレントD I)といいます。